

富士見市防災環境カルテ

水谷東1丁目地域

位置番号 36

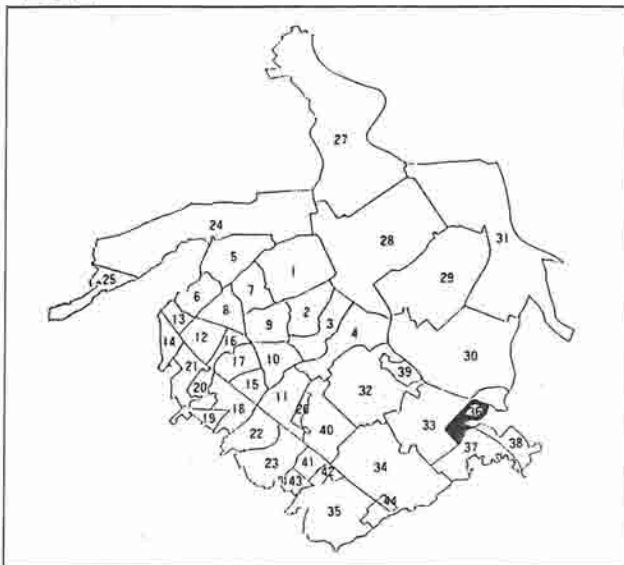
・概況

水谷東1丁目地域は、富士見市の南東部に位置し、北側は新河岸川に面し、西側は県道浦和・所沢線が通り、南東側は旧新河岸川をはさんで志木市上宗岡に隣接している。昭和34年以前は家屋も少なく（5棟）、水田として利用されてきた。昭和35年頃から、水田が盛土されて住宅地となり、住宅の密集化が進んだ。水害は、水害履歴から台風に伴う大雨や梅雨前線、秋雨前線による大雨により、家屋浸水、道路冠水の内水災害が発生が予想される。

地盤は、10m以上の軟らかい沖積層（氾濫平野）で形成されている。

したがって、軟弱地盤のため、地震が発生する（震度6以上）と住宅地の木造建物の約32%が破損し、出火延焼の危険性が、高いと予想される。また、志木市上宗岡に隣接する一部に液状化が予想される。

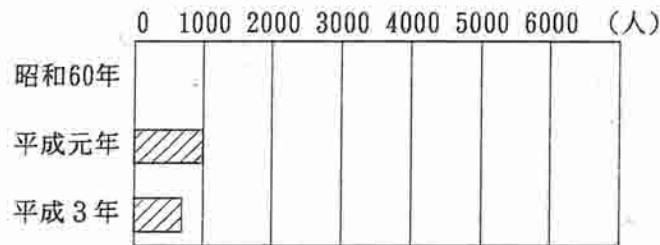
・位置図



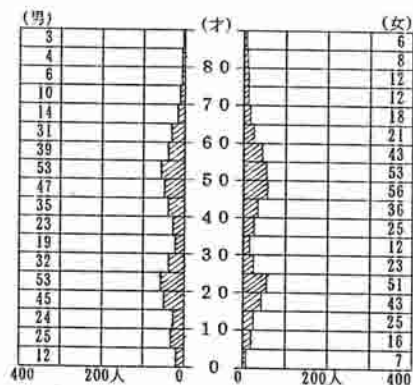
1. 基礎指標

・面積	0.104 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	479人
女	477人
計	956人
・人口密度	9,192.3人/km ²
・寝たきり老人数	0人
・ひとり暮らし老人数	0人
・世帯数	320世帯

・人口推移



・年齢別人口(平成3年)



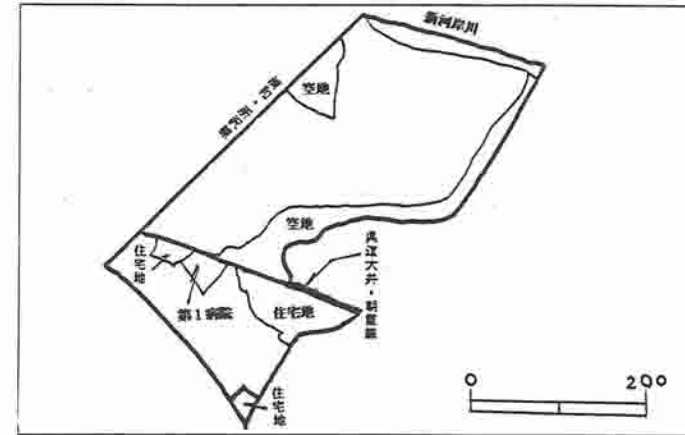
・商住工混在率住居系	95.4%
店舗系	2.5%
工業系	2.1%

富士見市防災環境カルテ

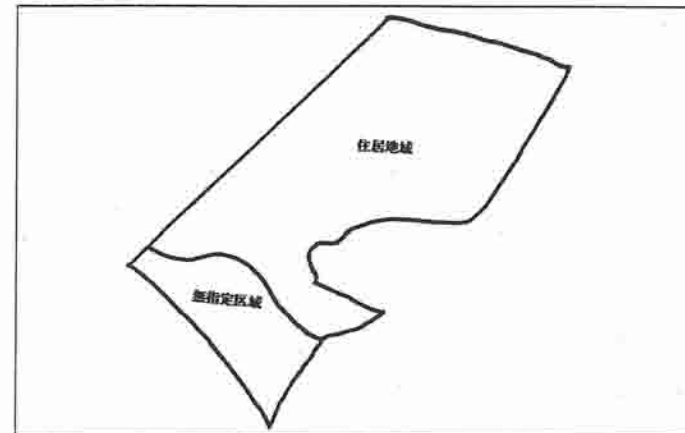
水谷東1丁目地域

位置番号 36

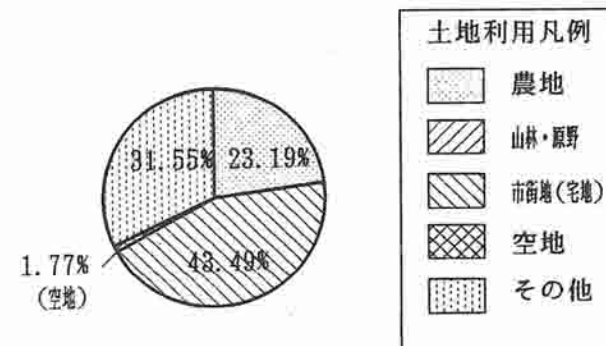
・町会現況図



・用途地域図



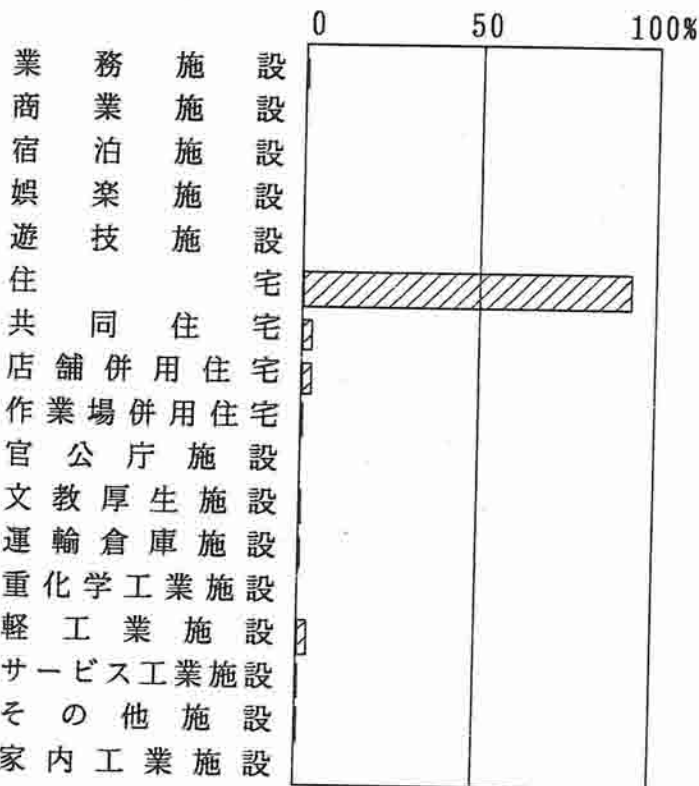
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	406棟	
木造建物	373棟	
非木造建物	33棟	
・建物面積	14,414.78㎡	
木造建物	12,279.22㎡	
非木造建物	2,135.56㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	93.0%	
・木造率	91.9% (373棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	5棟	
・同上率	1.3%	
・建物階層別現況 (木造建物)		
1階	74棟	19.6%
2階以上	300棟	89.0%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	24本	230.8本/㎢
・幹線道路率	3本	28.8本/㎢
・公共空地面積	0㎡	
・公共空地率	0%	
・1人あたり公共空地	0㎡/人	
・公共空地内容 (*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部	
・消火栓本数	7本	
・1消火栓あたり世帯数	45.4世帯/本	
・消防水利貯水施設数	2 (0) か所 ()内は容量40トン以上の施設数	
・消防団機械器具置場	0	

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
平成56年10月(氾濫24号)	65棟	2棟	か所
" 57年 9月(氾濫18号)	105棟	79棟	か所
平成元年 8月(大雨)	37棟	0棟	か所
" 2年11月(氾濫28号)	40棟	1棟	3か所
" 3年 9月(氾濫18号)	73棟	49棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)	0件		
・火災出火件数 (年 ~ 年)	0件		
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	0戸		
家屋半壊	0戸		
被害率	0%		

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	1か所	富士見第一病院
医 院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	2か所	水防倉庫 水谷東第3排水機場
・自主防災組織(数)	北袋自治会防災委員会 2 城之下自治会防災委員会	
・自主防災組織参加世帯率	100%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	4ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	4ランク
危険度	液状化危険度	3ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



9. 地盤条件

地盤は、10m以上の軟らかい沖積層（氾濫平野）の軟弱地盤である。この地域は震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	旧新河岸川からの溢水。密集住宅地内の雨水処理施設が十分に整備されていない。また旧新河岸川の遊水機能が十分に活用されていない。	1. 水防能力	水防施設は、水谷東第3排水機場、水防倉庫、水谷第三樋管があるが、水防能力は低い。
2. 外水災害	少ない。	2. 防災組織	北袋自治会、城之下自治会に防災委員会が組織されている。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため木造建物の倒壊について注意を要する。	3. 消防能力	建物棟数に比較して消火栓、消防水利貯水施設が少ない。
4. 出火危険	出火の危険性がやや高い。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は50%以下と低いため、延焼の危険性は大きい。	5. 避難収容力	他町会内の避難所（水谷東公民館、水谷中学校、水谷東小学校）に依存しているため、収容力は十分でない。地域内に避難所が必要と思われる。
6. その他の災害	地盤条件が悪いため、旧新河岸川沿いで液状化の危険性がある。		

11. 解決の方向性

水害予防対策として①旧新河岸川遊水池の機能の整備、同地域の排水ポンプの能力の向上 ②側溝排水管からの遊水池の水の逆流防止 ③可搬式ポンプ、防災資機材の整備 ④遊水池と住宅地との隔壁のかさあげを重点的に早急を実施していく。
 本地域は、地形的に新河岸川、柳瀬川の遊水地帯として機能してきた事実を踏まえ、都市型水害の防止のため新河岸川流域総合治水対策事業（県）と調整しながら住宅地内の雨水の抑制施設や住宅のかさあげを促進するための補助制度の検討などの対策が望まれる。
 住宅地を通る避難可能な道路のブロック塀の倒壊、また、商店街沿いの自動販売機の転倒による道路の狭隘化を防ぐため、予防対策の指導が望ましい。

※ 想定震度 6（+）（烈震（強））

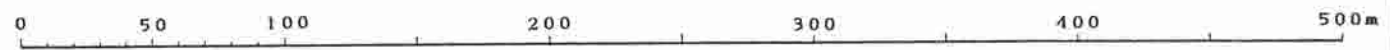
防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋
▽	横断歩道橋
△	立体交差
■	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河 川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

